

【選択肢】

1. 扁平上皮癌
2. 腺癌
3. 多形癌
4. inflammatory myofibroblastic tumor
5. 抗酸菌症
6. 大細胞神経内分泌癌
7. カルチノイド



【症 例】 20代, 女性.

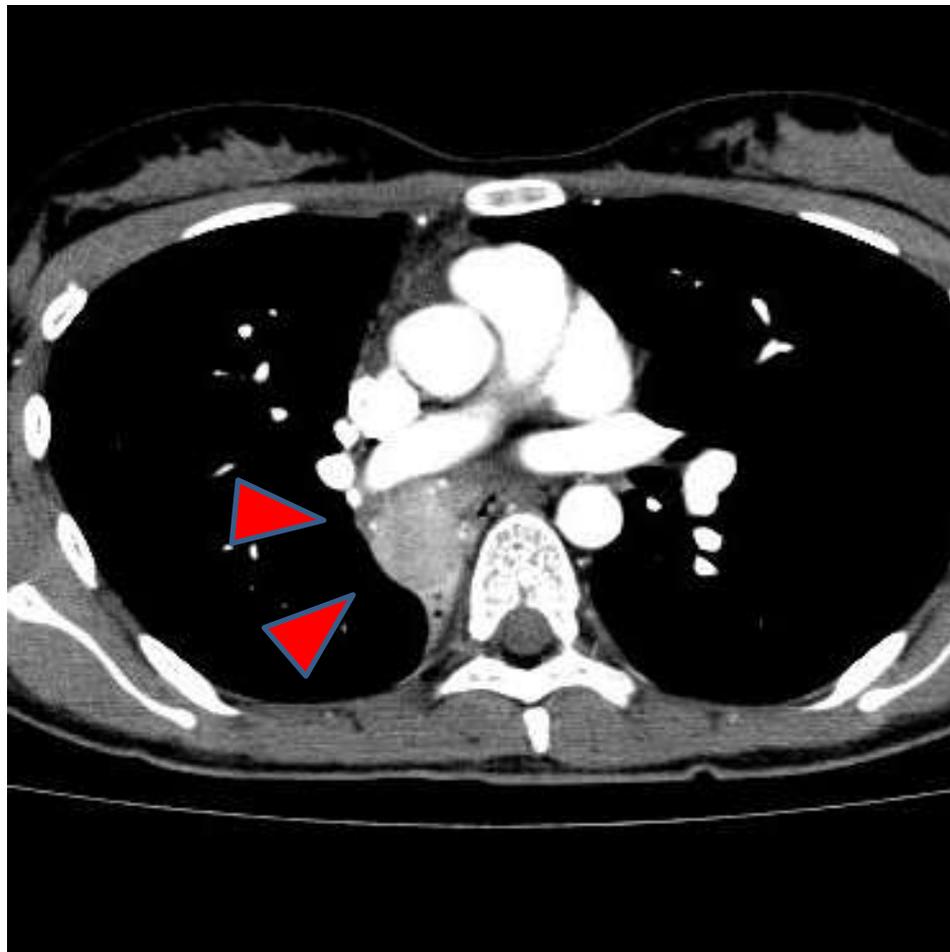
【主 訴】 咳嗽, 発熱.

【既往歴】 特になし.

【現病歴】 2週間ほど前から咳が出現し, 39℃の発熱で前病院を受診した. 症状は一旦改善したが, CTで右中間気管支幹に腫瘍を認めた. 気管支鏡で易出血性の腫瘍がみられ, 擦過細胞診で異型細胞を認めたが, 診断に至らなかった. 精査治療目的のため当院を受診された.



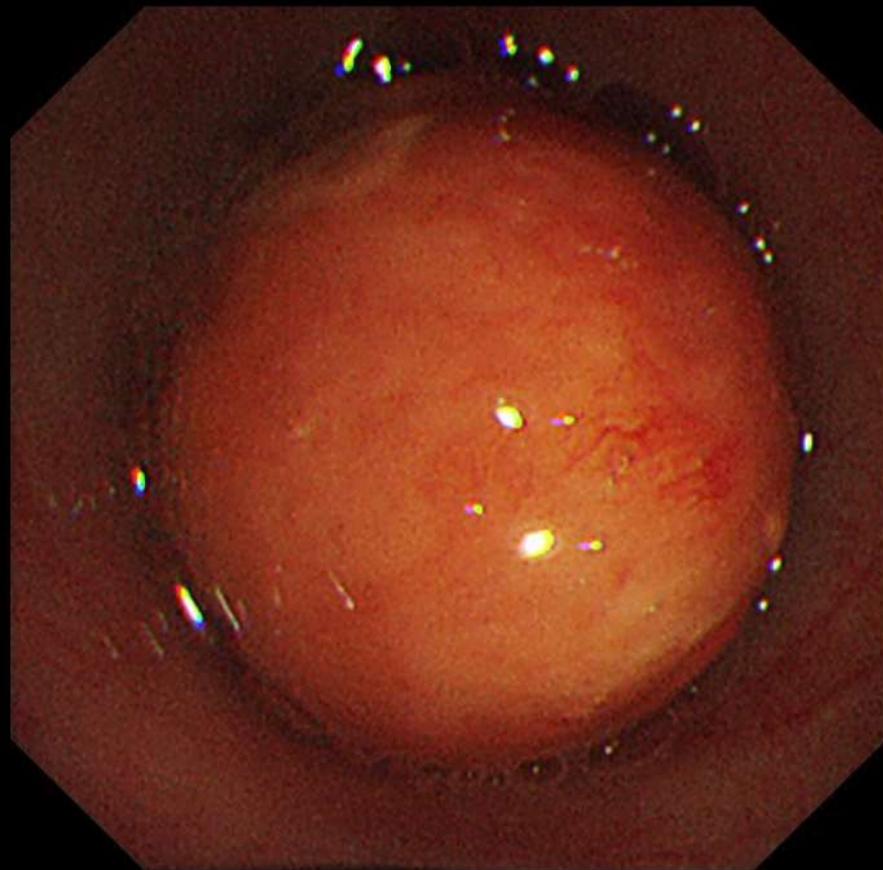
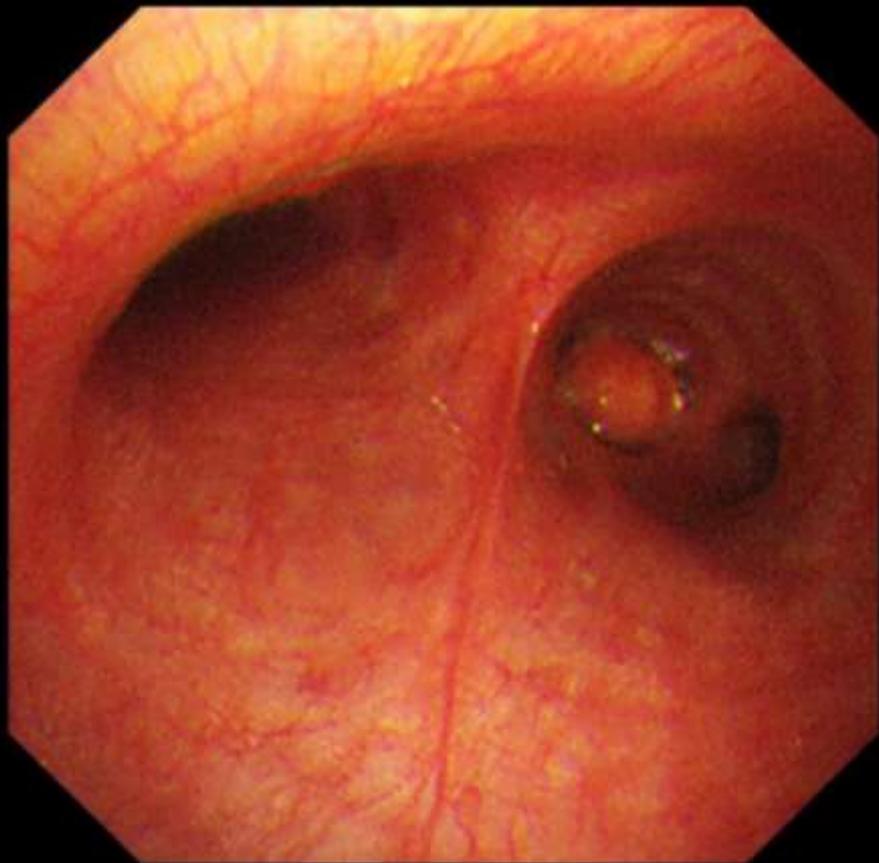
【 胸部CT 】



【 PET-CT 】



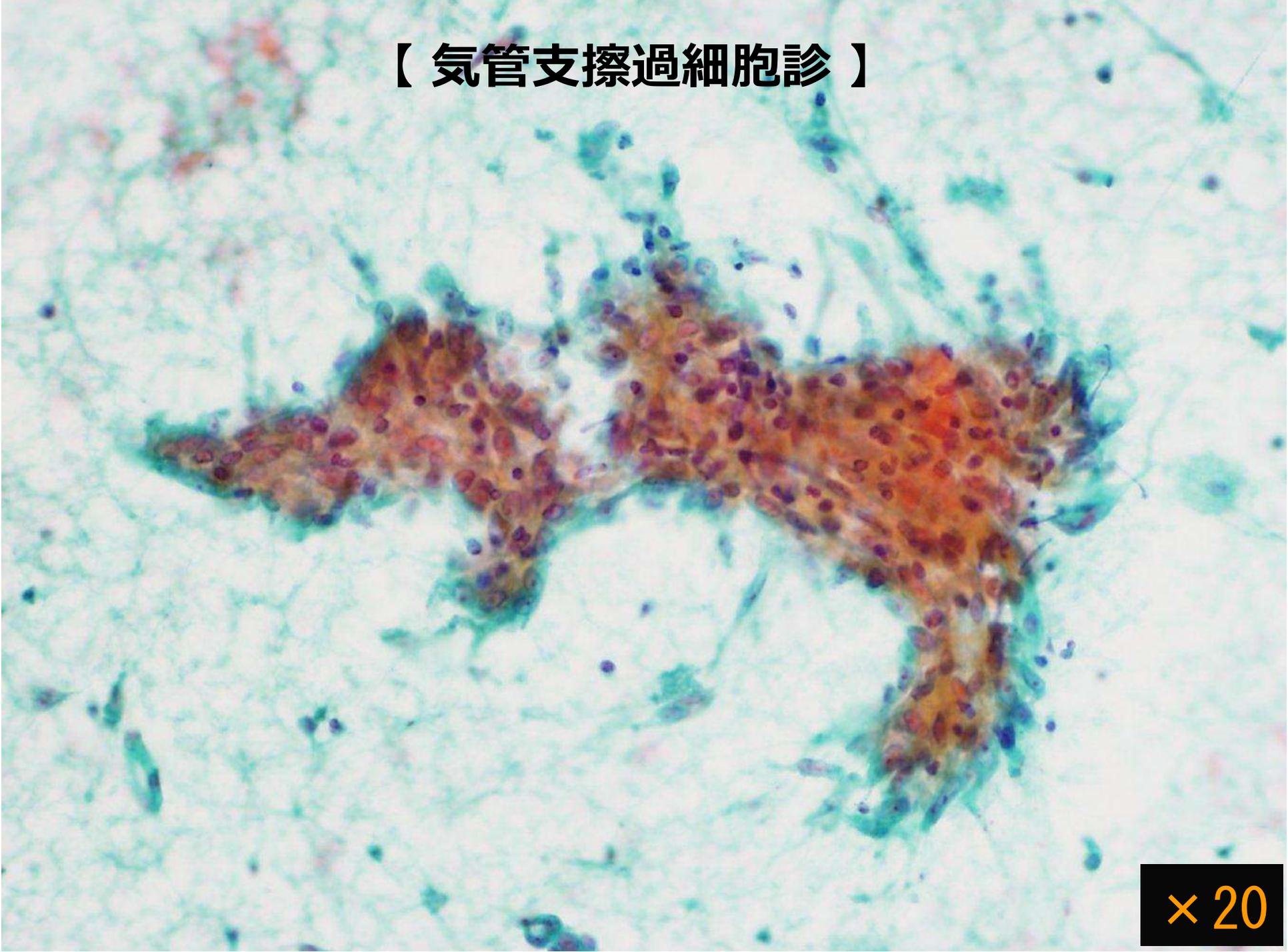
【 気管支鏡所見 】



【 肉眼所見 】

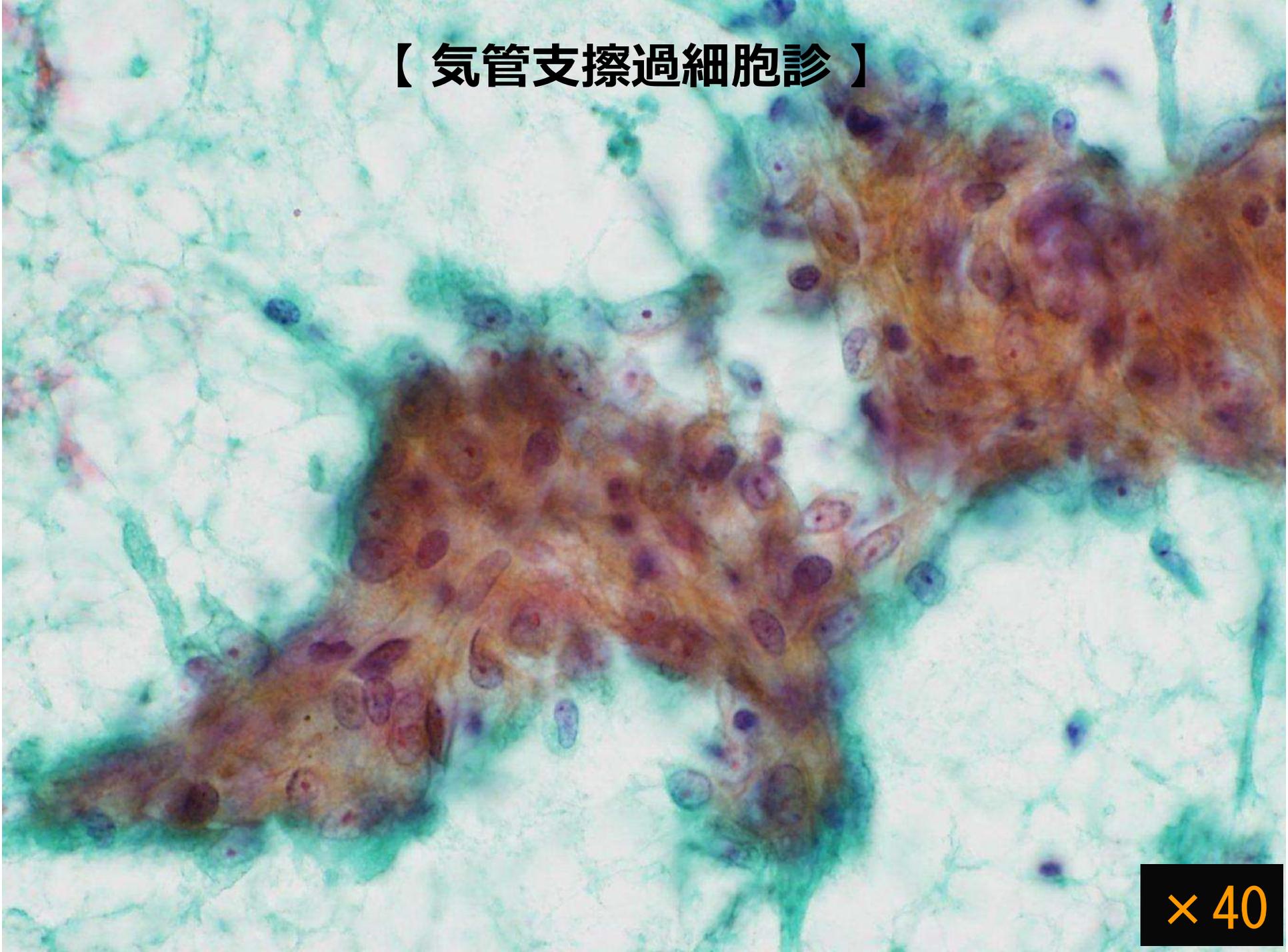


【 氣管支擦過細胞診 】



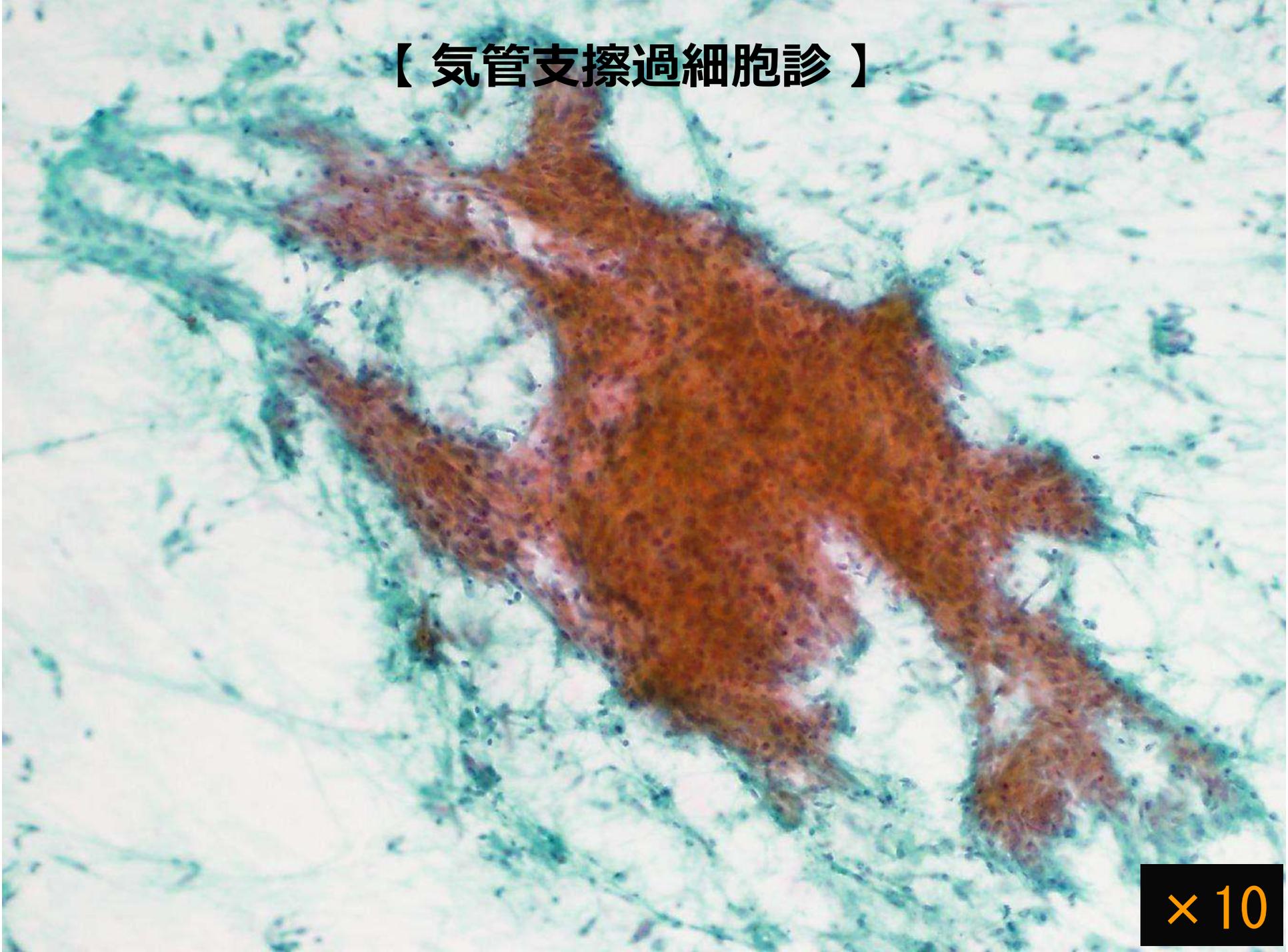
× 20

【 気管支擦過細胞診 】



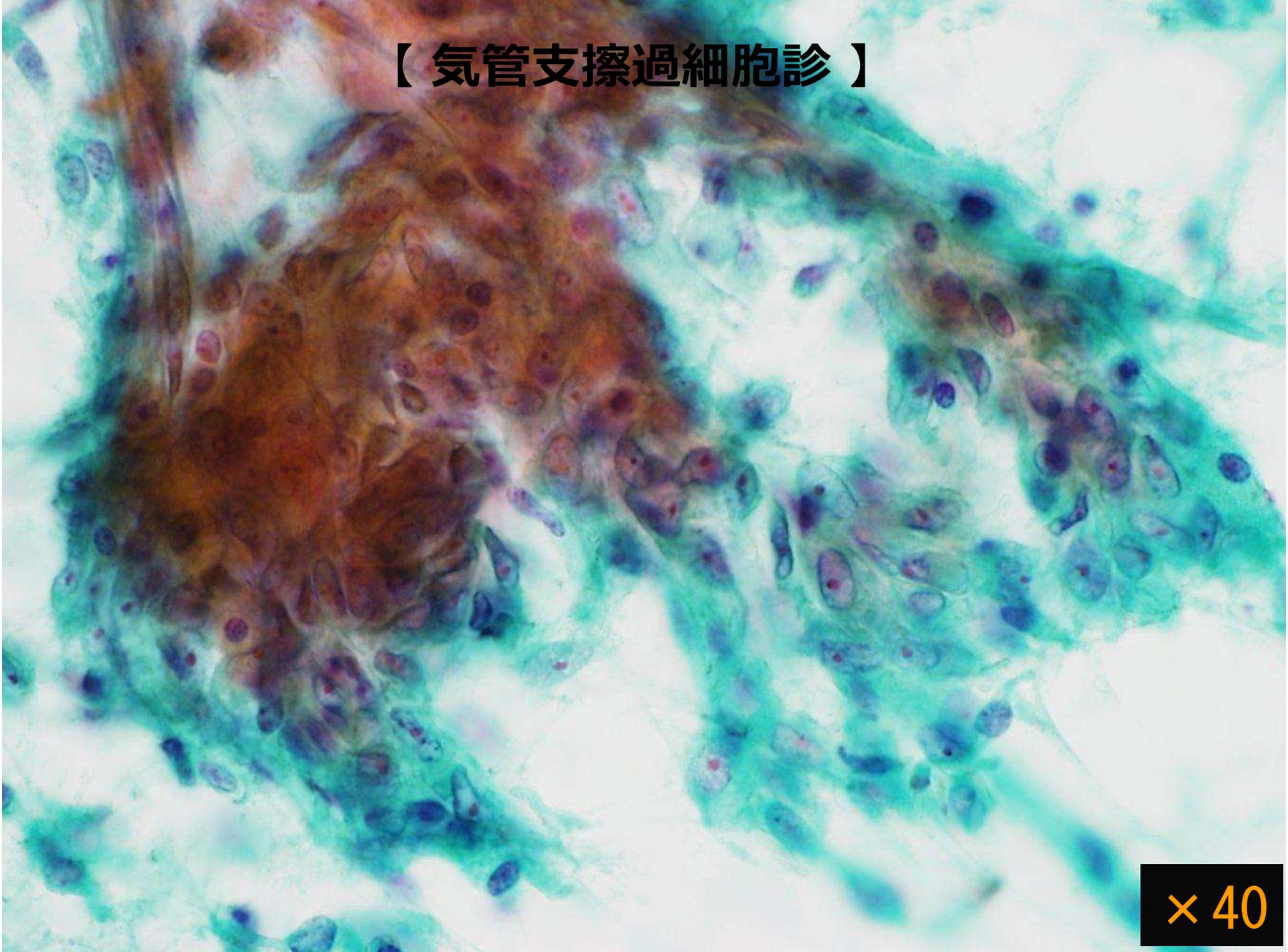
× 40

【 気管支擦過細胞診 】



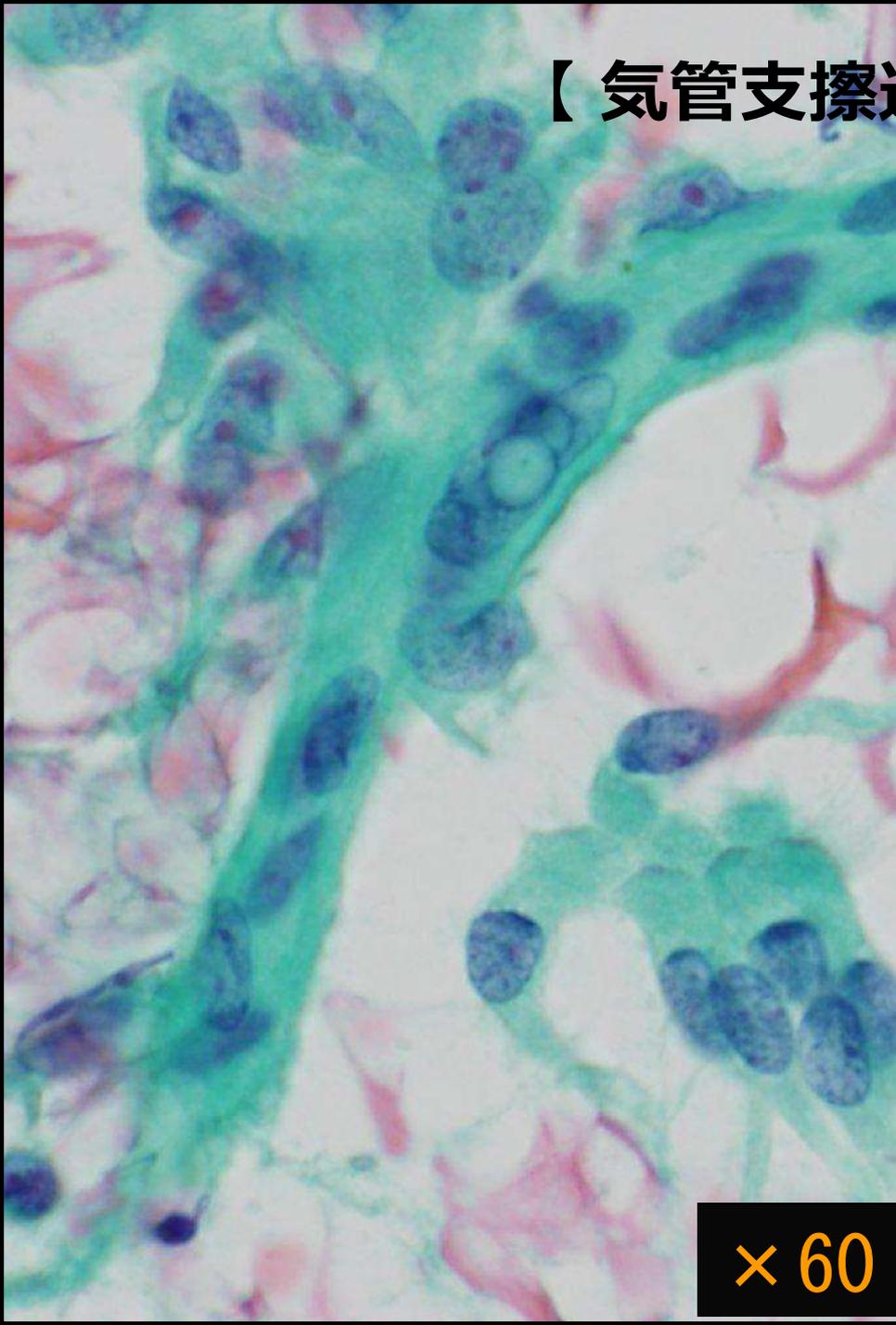
× 10

【 氣管支擦過細胞診 】

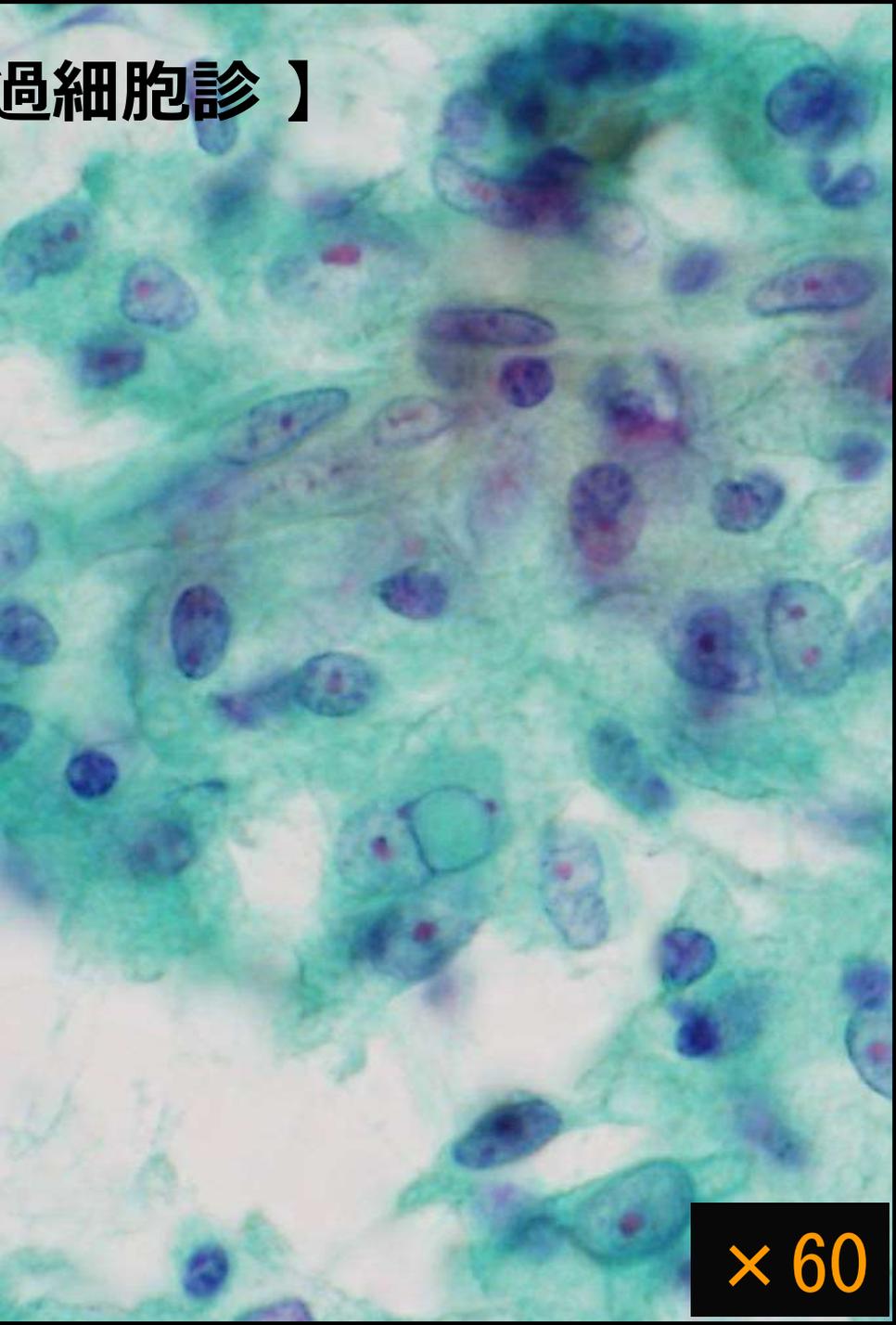


× 40

【 気管支擦過細胞診 】

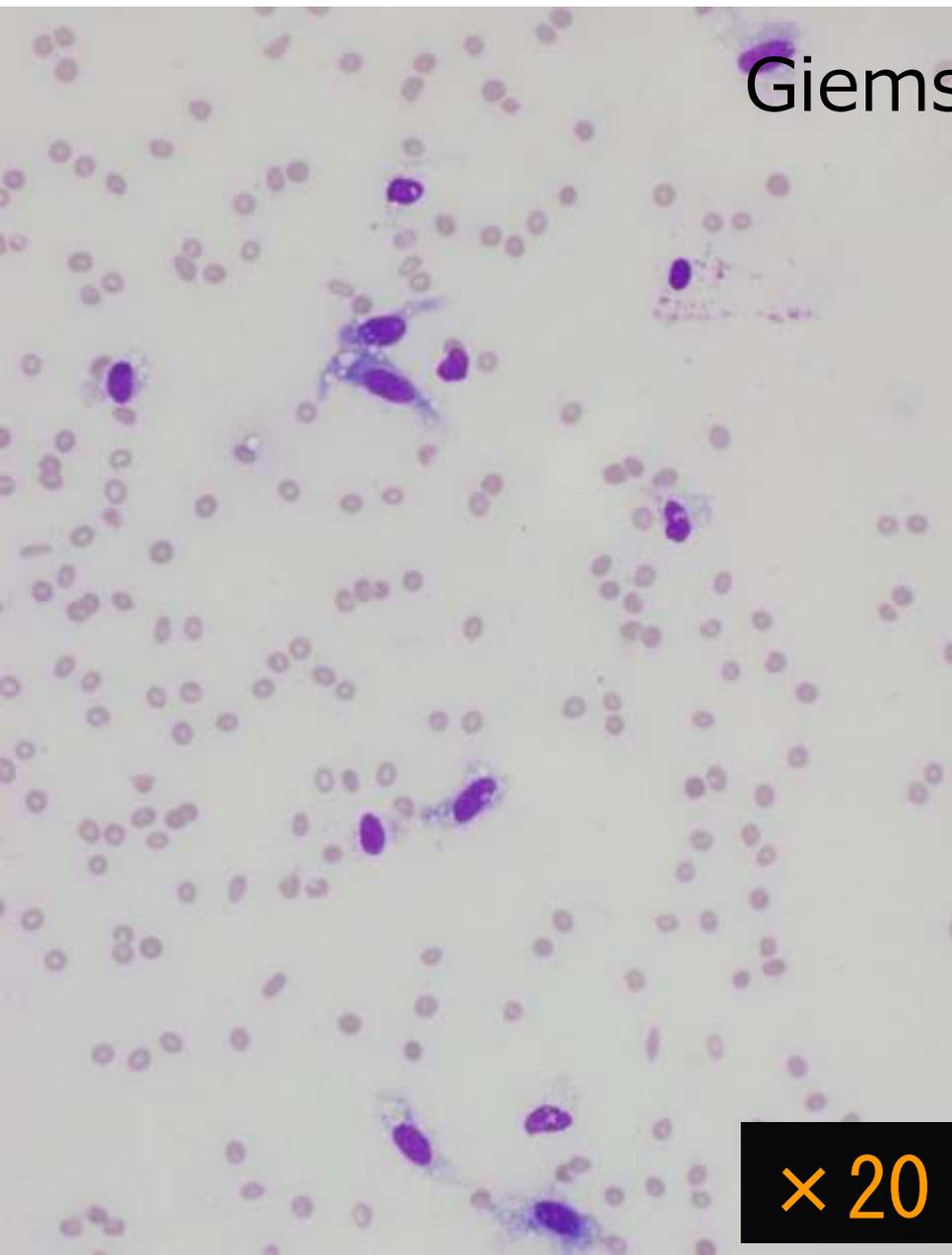


× 60



× 60

【 腫瘍擦印細胞診 】

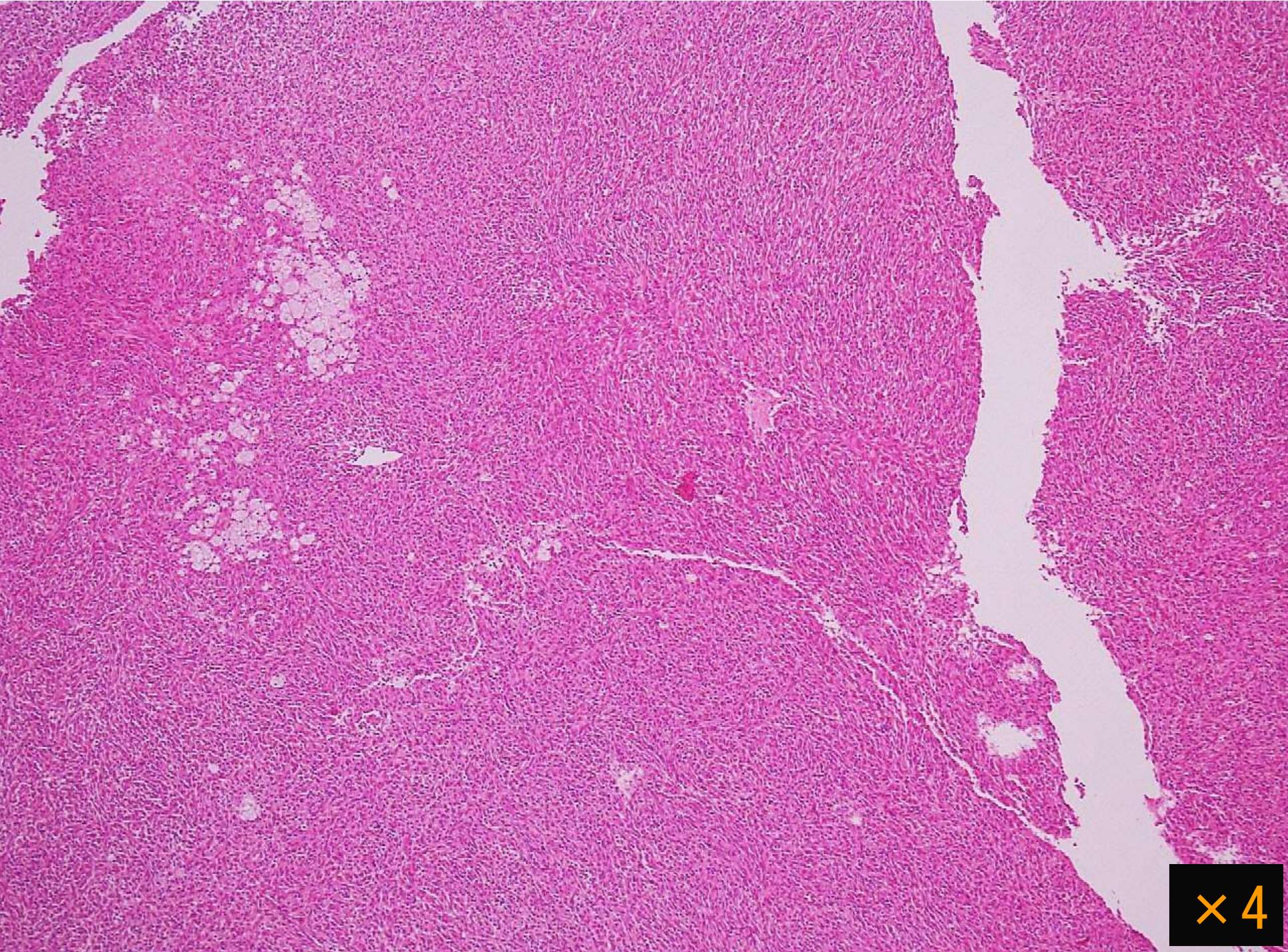


Giemsa染色

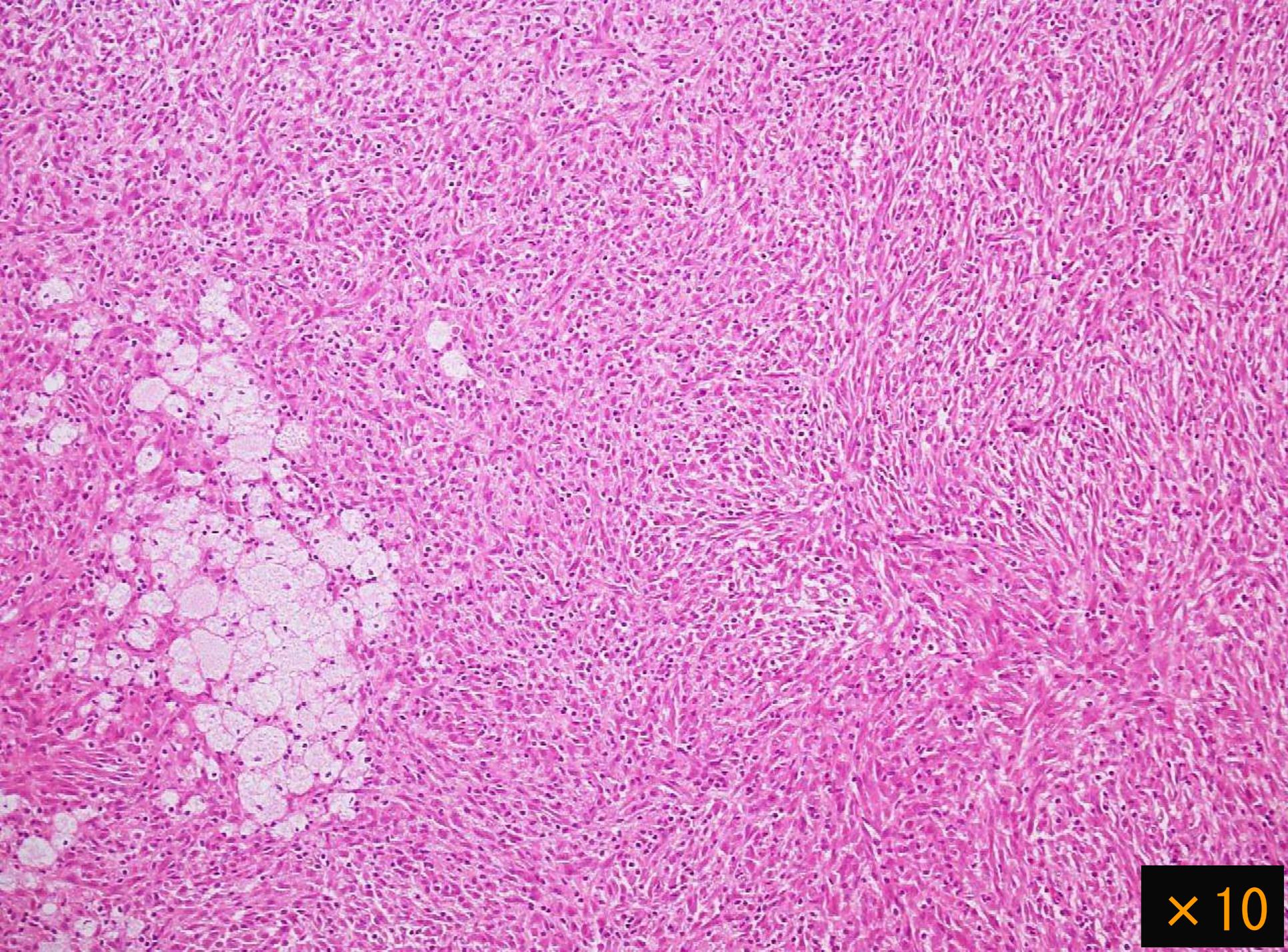
× 20



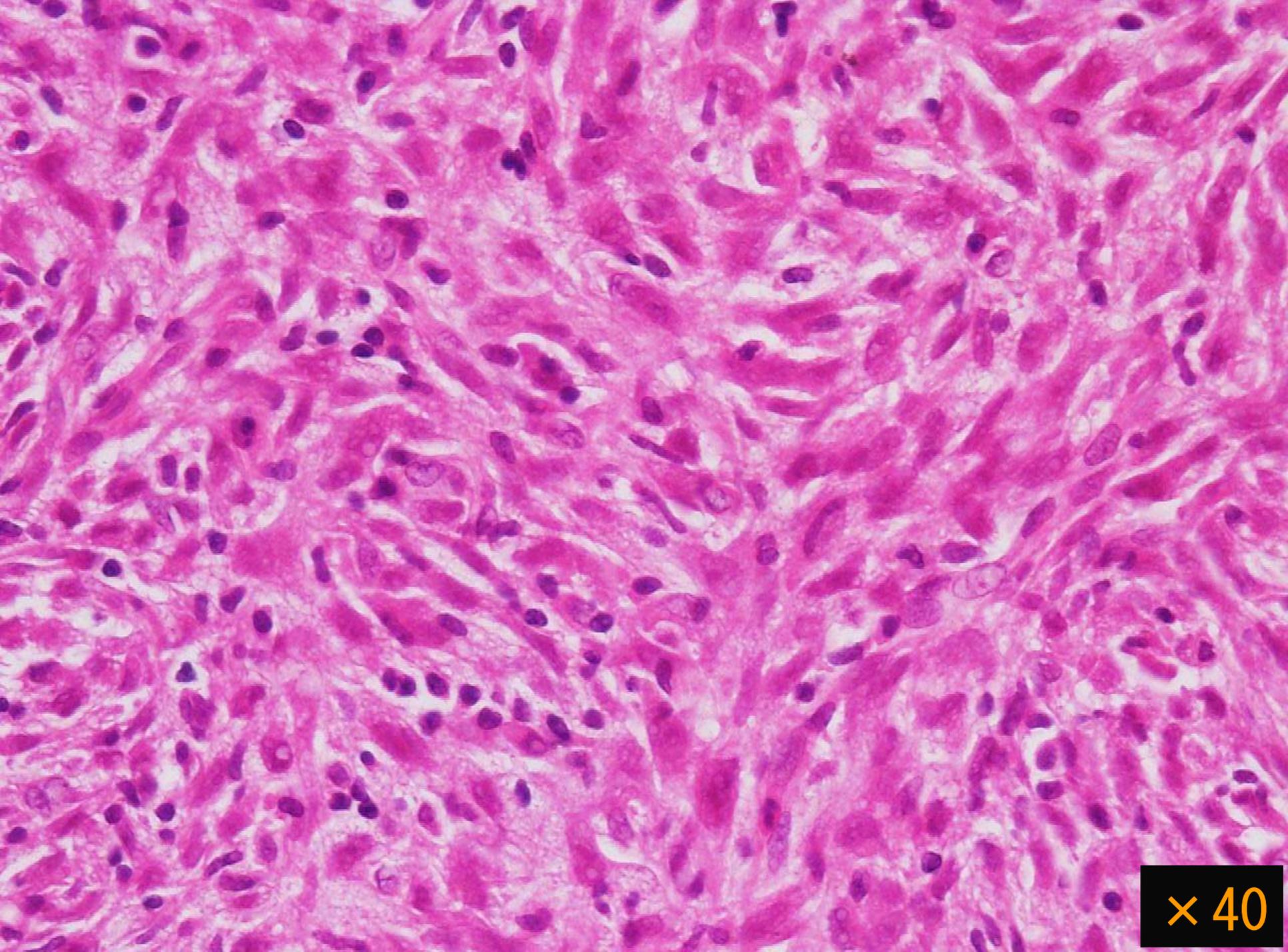
× 60



× 4

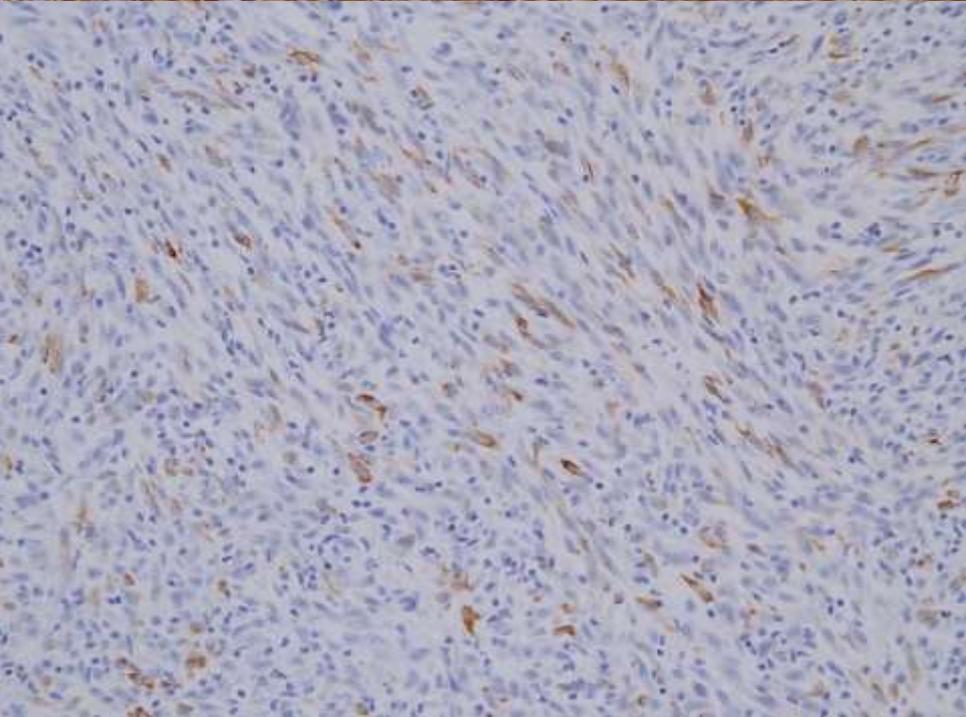
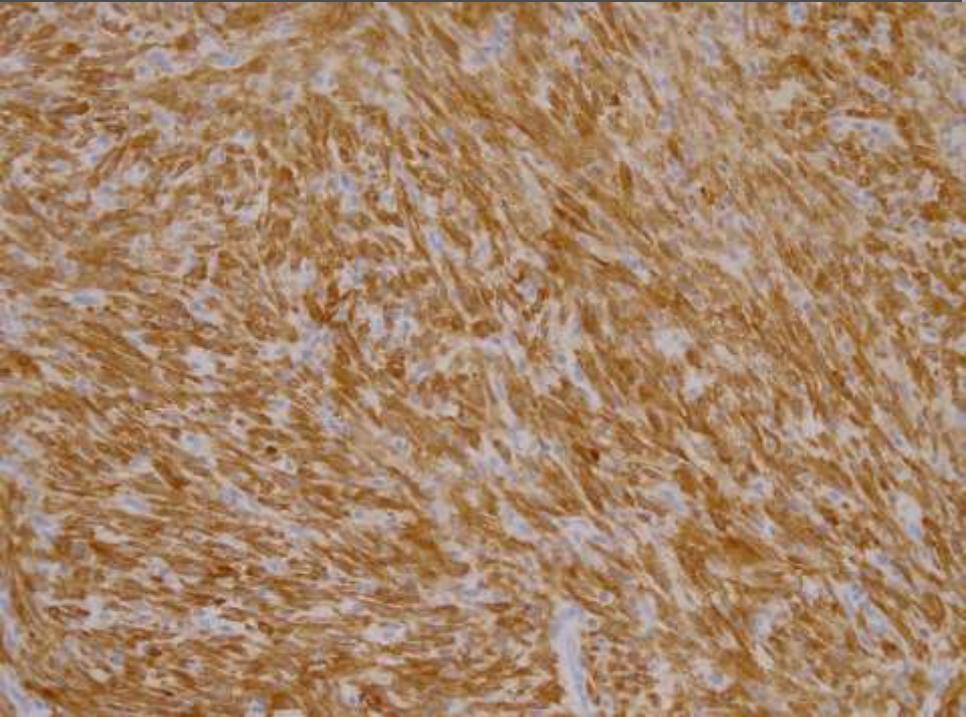
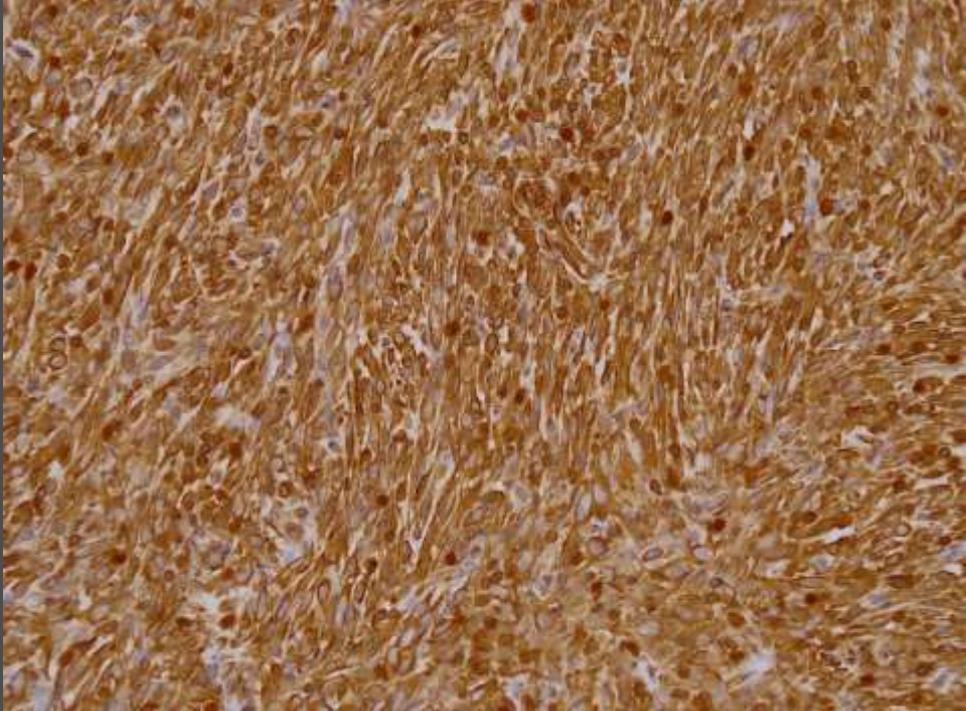


× 10



× 40

ALK | vimentin
CAM5.2



【 気管支由来の I M T 】

1. inflammatory myofibroblastic tumor (以下 I M T) は筋線維芽細胞の特徴を示す紡錘形細胞の増殖からなり, 主にリンパ球や形質細胞などの炎症細胞浸潤が著明な腫瘍である.
2. I M T は肺や腸間膜・大網などの腹腔内に好発し, 頭蓋内や骨を含むほぼ全身の各所において発生例が報告されている.
3. 肺の I M T は肺腫瘍全体の0.3%程度と報告されている.



【 気管支由来の I M T 】

4. 細胞学的特徴として、リンパ球や形質細胞などの炎症細胞とともに、紡錘形細胞が散在性あるいは集塊状に出現している。紡錘形細胞は、類円形から楕円形の核を有し、核クロマチンは微細顆粒状で、小型の核小体を認める。核異型は乏しく、一部に核内細胞質封入体を認める。
5. 免疫染色では、腫瘍細胞がビメンチン、 α SMAに陽性を示し、デスミンはまれに陽性、S-100蛋白とc-kitは陰性である。肺病変の46%の症例にALKの発現がみられる。



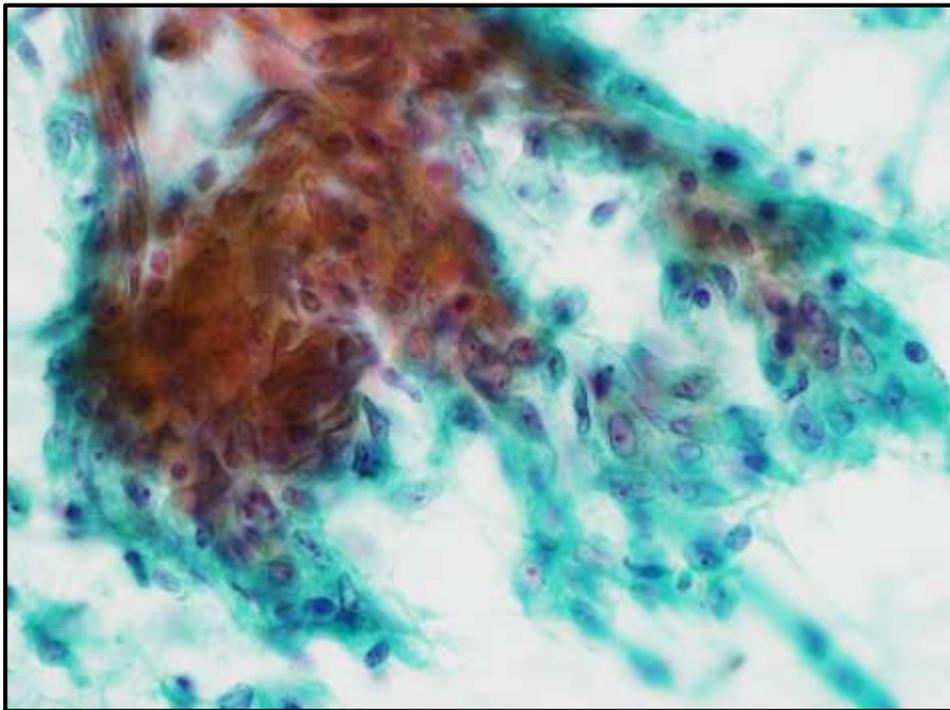
【 気管支由来の I M T 】

6. 鑑別疾患として、肺結核や紡錐細胞癌、未分化多形肉腫、平滑筋肉腫などが挙げられる。
7. 診断にあたっては、形態学的特徴や細胞異型、壊死の有無、核分裂像、免疫組織化学的所見などの病理学的所見に加えて、発生部位や年齢などの情報も踏まえて、総合的に行う必要がある。

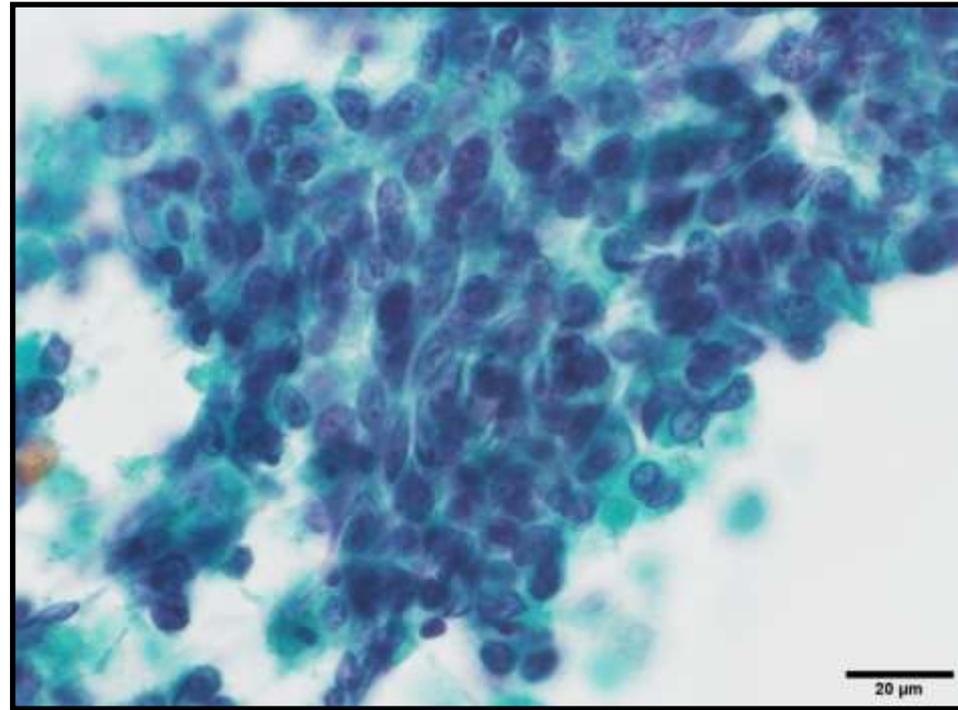


【 I M T 】

【 扁平上皮癌 】



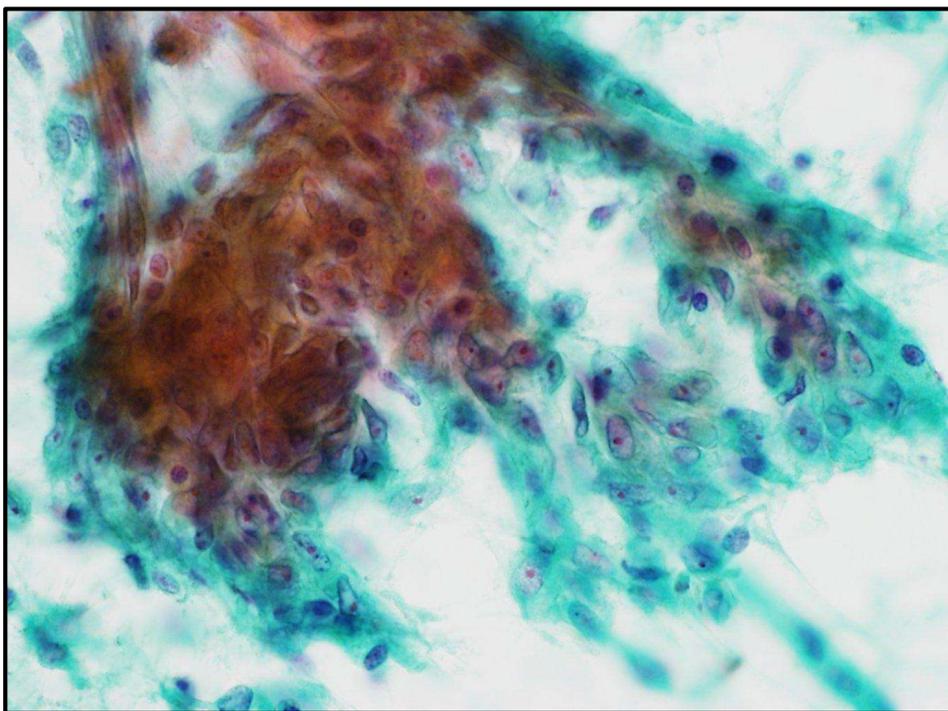
- ①背景のリンパ球や形質細胞などの炎症細胞,
- ②核異型の乏しい紡錘形細胞の出現,
- ③核内細胞質封入体の存在



- ①壊死性背景
- ②シート状配列
- ③細胞は類円形から多稜形で核中心性,
- ④顆粒状の核クロマチンを示す
- ⑤楕円形核の悪性細胞が長軸方向に沿って、一定方向に流れるような集塊として出現

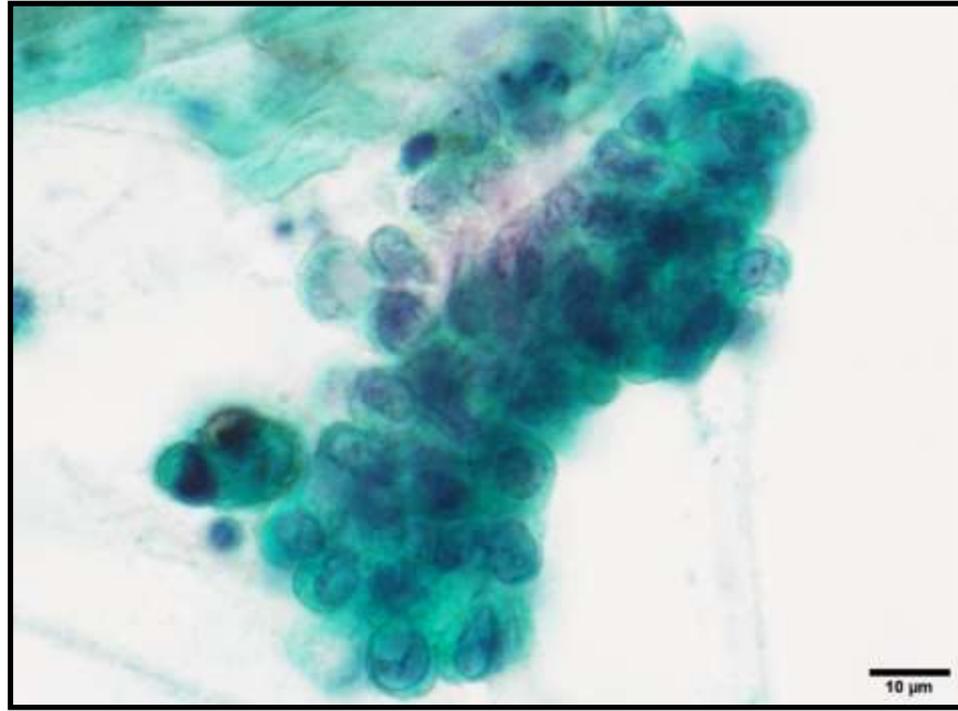


【 I M T 】



- ①背景のリンパ球や形質細胞などの炎症細胞,
- ②核異型の乏しい紡錘形細胞の出現,
- ③核内細胞質封入体の存在

【 腺癌 】

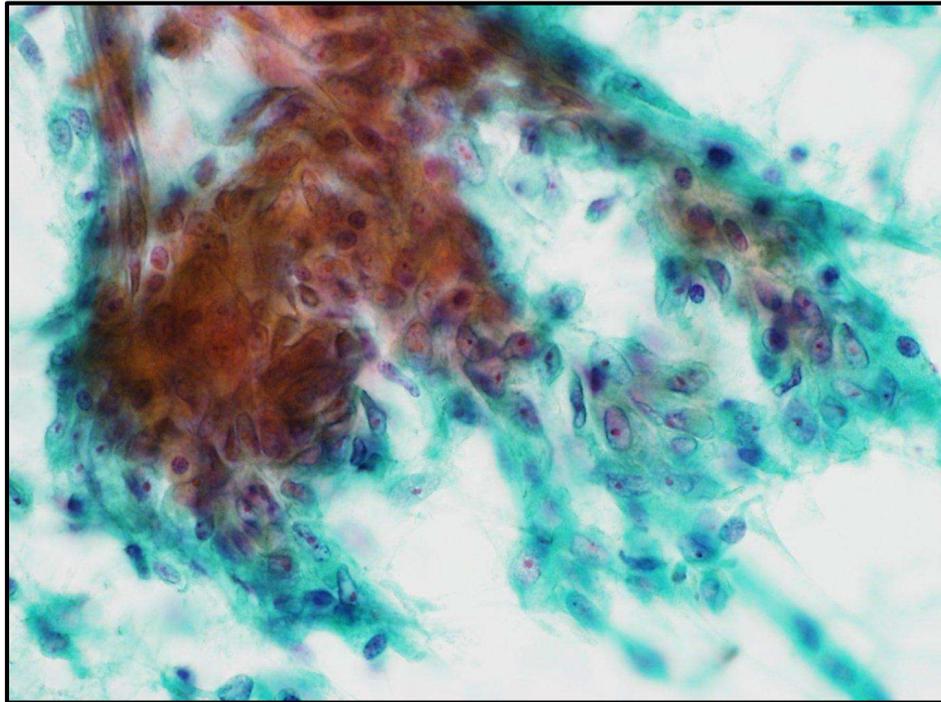


- ①立体的な集塊として出現
- ②不規則に重積し、乳頭状や管状配列がみられる
- ③細胞質は淡染し、泡沫状～レース状
- ④核は偏在傾向
- ⑤核クロマチンは微細顆粒状で、核小体を伴う。
- ⑥核形不整や核内細胞質封入体

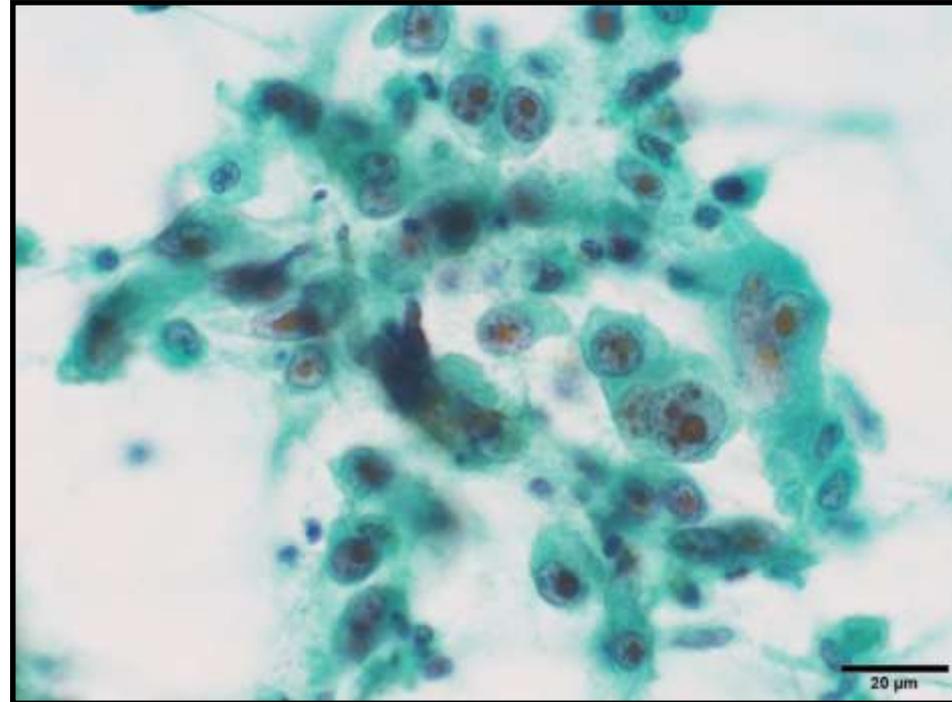


【 I M T 】

【 多形癌 】



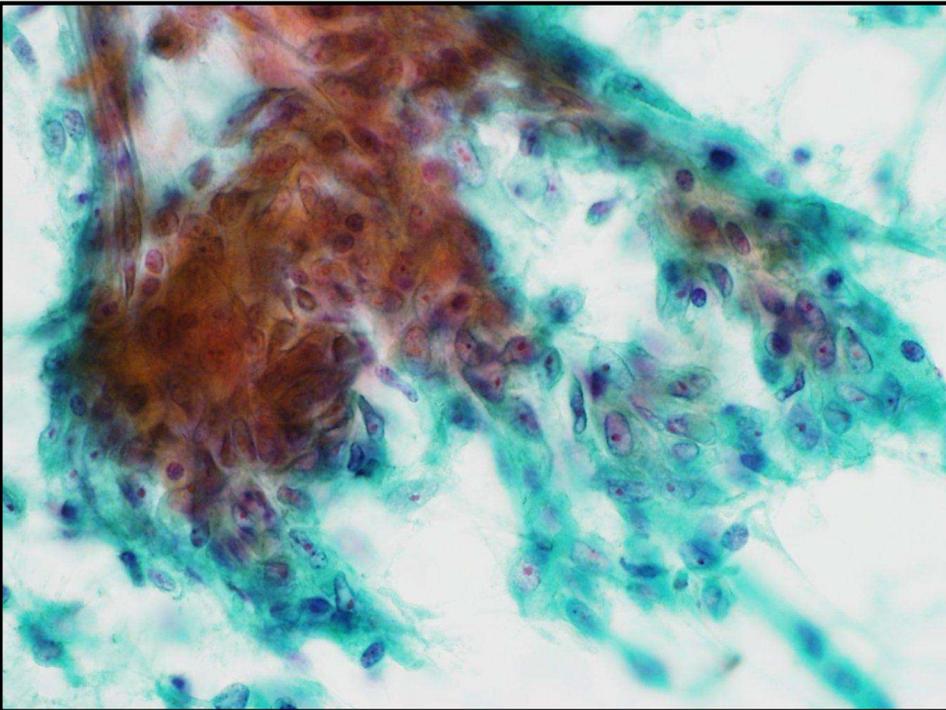
- ①背景のリンパ球や形質細胞などの炎症細胞,
- ②核異型の乏しい紡錘形細胞の出現,
- ③核内細胞質封入体の存在



- ①壊死性、出血性背景
- ②大型で多形性に富む腫瘍細胞の出現
- ③孤立性あるいは大型の細胞集塊
- ④核分裂像を多数認める
- ⑤“emperipolesis”が散見される

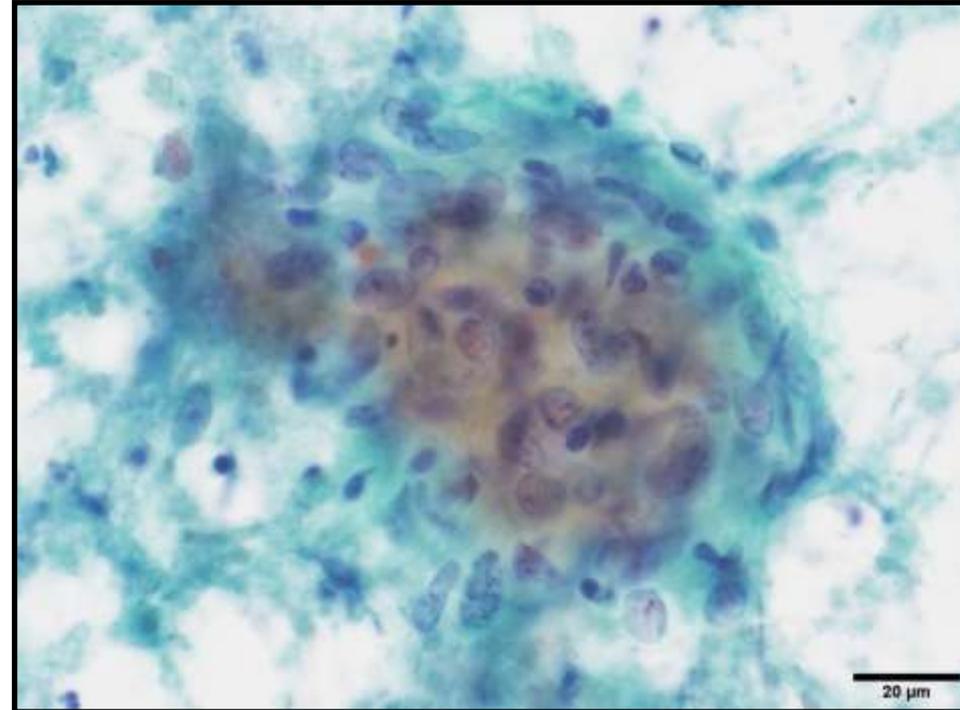


【 I M T 】



- ①背景のリンパ球や形質細胞などの炎症細胞,
- ②核異型の乏しい紡錘形細胞の出現,
- ③核内細胞質封入体の存在

【 抗酸菌症 】

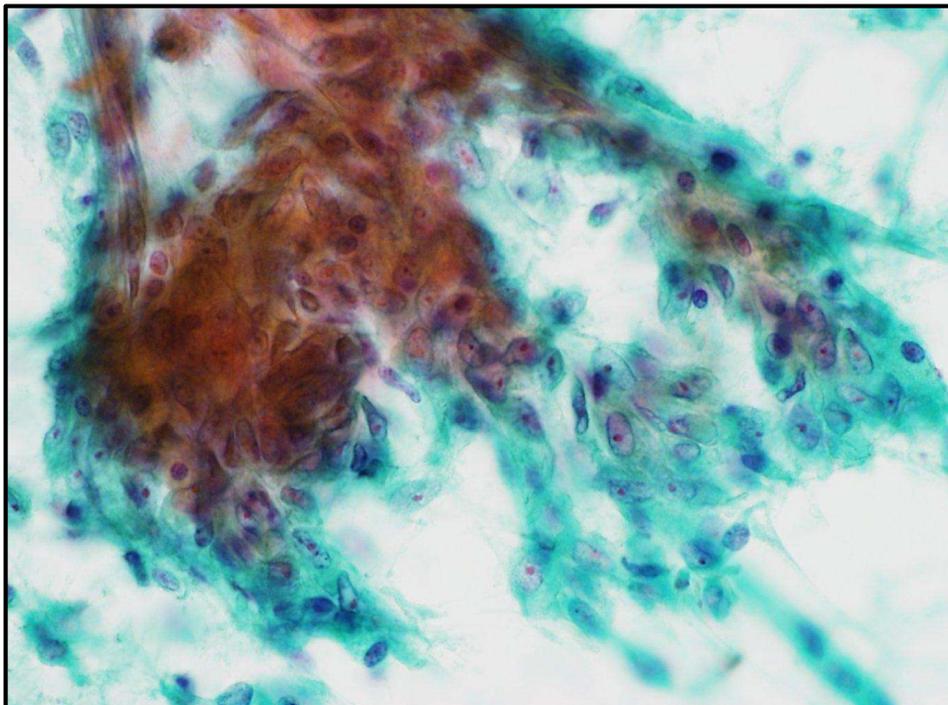


- ①乾酪壊死, Langhans型巨細胞と類上皮細胞が出現
- ②紡錘形で一部ねじれたような細胞集塊
- ③類上皮細胞は, 核が細長く, 折れ曲がっているものがあり, 核縁が薄く, 核クロマチンは微細顆粒で淡い

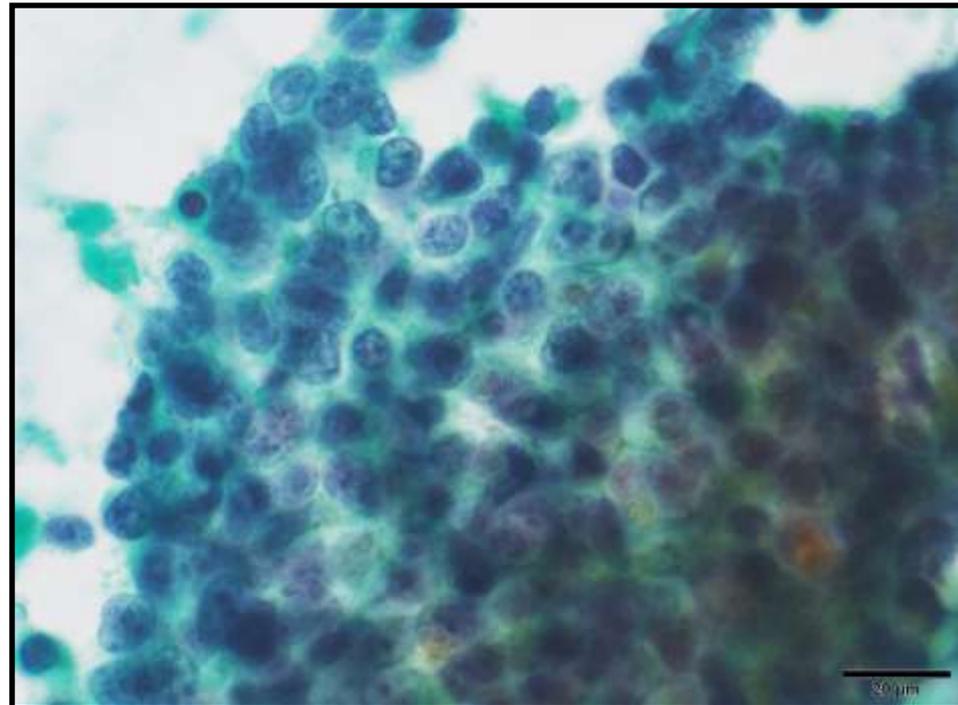


【 I M T 】

【大細胞神経内分泌癌】



- ①背景のリンパ球や形質細胞などの炎症細胞,
- ②核異型の乏しい紡錘形細胞の出現,
- ③核内細胞質封入体の存在

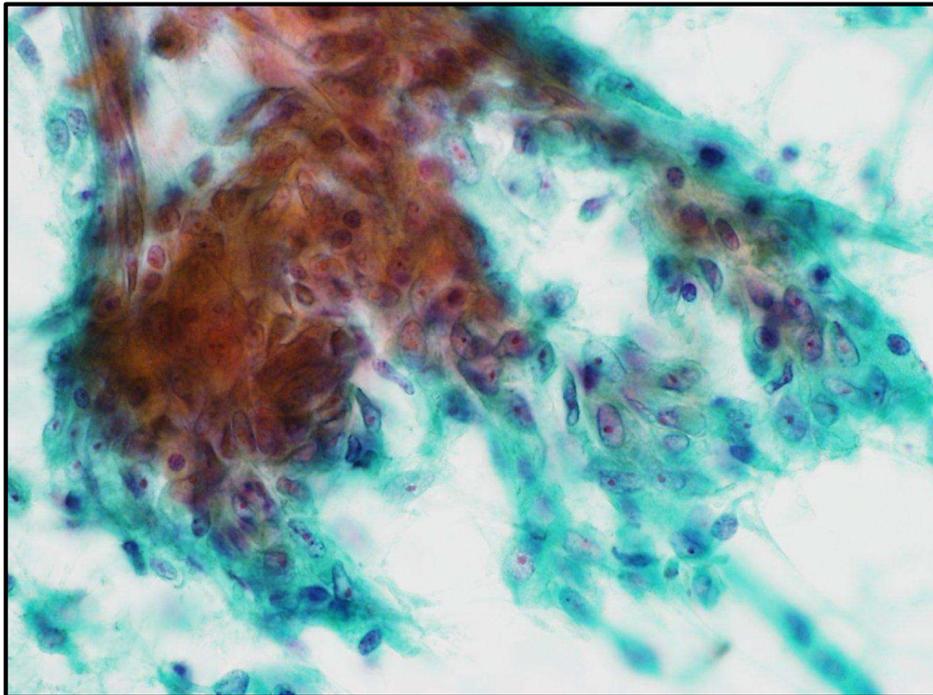


- ①背景は壊死性、核線、核濃縮細胞の出現
- ②**平面的細胞集塊**として出現し細胞質が比較的豊富
- ④細胞は、中等大から大型
- ⑤核は大小不同があり、クロマチンは細あるいは粗顆粒状
- ⑥核小体、核分裂像を認める。

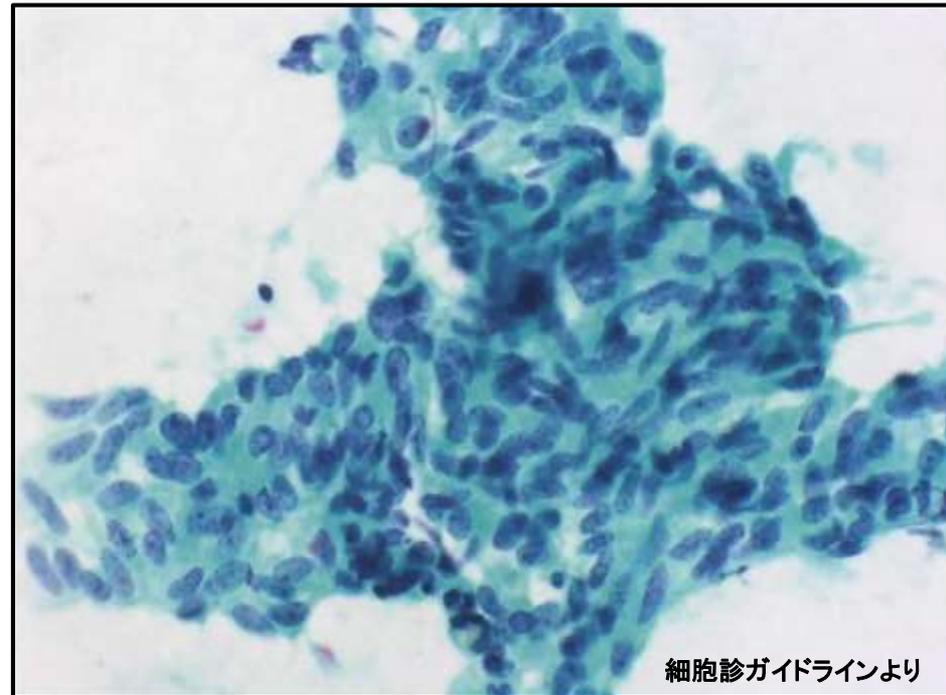


【 I M T 】

【 カルチノイド 】



- ①背景のリンパ球や形質細胞などの炎症細胞,
- ②核異型の乏しい紡錘形細胞の出現,
- ③核内細胞質封入体の存在



細胞診ガイドラインより

- ①**紡錘形細胞カルチノイド**：主に紡錘形細胞からなるカルチノイド
- ②カルチノイドの5～30%
- ③少量から中等度の細胞質をもった、紡錘形細胞からなる
- ④細胞境界は不明瞭
- ⑤核は均一で、クロマチンは微細顆粒状
- ⑥核小体は目立たない



【 紡錘形細胞を有する肺腫瘍 】

1, 原発性肺癌

- ・ 扁平上皮癌
- ・ 紡錘形細胞カルチノイド
- ・ 肉腫様癌（紡錘細胞癌・多形癌）
- ・ 肺芽腫

2, 転移性腫瘍

- ・ 大腸癌
- ・ 未分化多形肉腫
- ・ 悪性黒色腫
- ・ 平滑筋肉腫
- ・ 葉状腫瘍



【 紡錘形細胞を有する肺腫瘍 】

3, 良性病変

- 肉芽腫（結核, 非結核性抗酸菌症,
サルコイドーシス)
- 過誤腫



【 結語 】

- ・ 若年者に発生した肺腫瘍で，異型に乏しい紡錘形腫瘍細胞が出現し，背景にリンパ球や形質細胞，組織球を伴う場合には，本腫瘍を鑑別診断の一つとして知っておく必要があると考えた。

